

JSA 神奈川支部通信

No. 8 August 2025 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 00280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

この号の目次

- ◆ JSA 神奈川支部研究交流会お知らせと話題提供の募集 JSA 神奈川支部幹事会
- ◆ 原水爆禁止 2025 年世界大会科学者集会「學術の軍事化と核廃絶」の案内 集会実行委員会
- ◆ JSA 第 56 回定期大会に参加して 支部代議員 飯岡ひろし
- ◆ 第 61 回支部大会記念講演「日本の教育のあり方を考える」を論議 支部事務局長 飯岡ひろし
- ◆ 横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備で配備反対連絡会が院内集会を開催 後藤仁敏
- ◆ 第 9 回九条の会全国交流集会の報告 後藤仁敏
- ◆ 本の紹介：『食の属国日本—命を守る農業再生』（鈴木宣弘著、三和書籍） 惣田昱夫
- ◆ ドラマ紹介：「あなたを奪ったその日から」悲しみに打ち勝つ愛の物語 後藤仁敏

JSA 神奈川支部研究交流会のお知らせと話題提供の募集

JSA 神奈川支部幹事会

JSA 神奈川支部研究交流会を 10 月 25 日（土）の午後、横浜市内で開催します。記念講演として、石原元会員に「日本における環境影響評価法の課題」をお願いしました。

会員から話題提供を募集します。多くの会員が、話題提供し、研究を交流して下さるようお願いします。なお、終了後、有志による懇親会を行います。

日時：2025 年 10 月 25 日（土）

開場 13:00 開会 13:30 終了 16:30 ごろ

講演：13:30～14:30、話題提供：14:40～17:00、終了後、有志による懇親会

会場：横浜市内（未定）

話題提供の募集：希望者は、氏名と所属、話題提供のタイトルを、8 月 10 日までに、後藤までお知らせくださるようお願いいたします。送り先：goto(at)kd5.so-net.ne.jp

記念講演：日本における環境影響評価法の課題

（株）W&I アソシエーツ 石原 元会員

演者は約 35 年間にわたり民間・公共を問わず様々な事業の環境影響評価に従事して来た。現在は風力発電事業の環境影響評価に携わっている。その中で日本における環境影響評価の課題が明らかになって来たのでこの点についてお話しする。

日本は現在でこそ環境先進国を自認しているがその歴史は苦いものばかりである。1956 年に公式に発生が確認された水俣病は世界に類例を見ない公害病であり、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくと合わせて四大公害病と呼ばれる。水俣病の認定から 1967 年の公害対策基本法成立までに 11 年の年月が費やされており、日本はまさに公害先進国であった。



総理府の外局として環境庁が発足するのが 1971 年、環境基本法の成立が 1993 年、環境影響評価法の成立は更に後の 1997 年である。環境庁が環境省に格上げされるのは 2001 年である。アメリカ合衆国で環境保護庁 United States Environmental Protection Agency が設立されるのが 1970 年、同国において National Environmental Policy Act 国家環境政策法が成立するのはその 1 年前の 1969 年である。日米間では環境に対する法制度の成立に約 30 年の時間差がある。

環境影響評価法の課題であるが、大きくは 3 つある。まず、この法律は事業による環境影響を評価しつつも事業実施の可否を判断する有効な手段がなく、単なる手続き法になっている。また、事業開始後に事業前の環境状態と比較する手段はほとんどなく、事業開始後に環境が改悪された場合でも事業を中止させることが事実上不可能である。最期に環境影響評価は自然環境（生物環境と物理環境）一辺倒であるため、社会環境に対する配慮がなく、事前に住民との調停がなされる事がない。問題が起きた時には事業が成立しているのである。

講師略歴：1950 年横浜生まれ、神奈川県藤沢市在住、(株)W&I アソシエーツ代表取締役、水産と環境の学際領域を研究。

原水爆禁止 2025 年世界大会科学者集会「学術の軍事化と核廃絶」の案内

集会実行委員会

被爆から 80 年を迎える今、世界は平和構築に向けた動きとは正反対の戦争拡大に突き進もうとしています。世界の戦争と平和の問題、日本学術会議特殊法人化を手段として学問の軍事化を迫りしようとする日本政府、過去の歴史を振り返りながら、現代の軍事研究と学問のあり方、平和構築のための道を考えていく場にしたいと思います。

日時：8 月 3 日（日）13:30～16:30

場所：オンライン配信（zoom）

参加費：無料

参加申込み：<https://forms.gle/yW2dewYcDM13wKAE8> または右の QR コードから
必要事項を入力してください。

プログラム：

開会挨拶 13:30～13:40

報告 1 13:40～14:40

核廃絶—仁科芳雄博士がめざしたもの

上山明博さん（ノンフィクション作家、日本科学史学会会員、近著『仁科芳雄：「原爆を作ろうとした物理学者」がみたもの』青土社、2025 年）



上山明博さん

報告 2 14:50～15:50

戦後 80 年、原爆投下 80 年における先進国の戦争準備と学術の軍事化

羽場久美子さん（国際政治学者、青山学院大学名誉教授、近著『世界の
中の日本：社会に羽ばたく若者たちへ 平和をつくる』明石書店、2024 年）



羽場久美子さん

全体討論 15:50～16:30

主催：原水爆禁止 2025 年世界大会科学者集会実行委員会

5 月 24 日（土）、6 月 8 日（日）の二日間、日本科学者会議の全国大会がオンラインで開催されました。私は神奈川支部の大会で選出された代議員として参加しました。

今年は第 56 回目の定期大会で科学者会議発足から 60 周年になります。私は 1 日目は日本科学者会議の研究会「気候変動」の委員会が同時開催されたので、オンラインの掛け持ちになってしまいました。大会は 47 人前後で成立して、進められました。大会では、60 周年記念行事、研究助成の件、ハラスメント対応、「日本の科学者」の発行回数・発行形態に関する件、財政問題（会費値上げ議論）、JSA の組織活動のあり方・支部の活動報告等、多くの議論が交わされました。大会は決議として、『日本学術会議解体法案』の廃案を求める」が採択され、最後に 61 期の役員を選出しました。

私の感想を簡単に書きます。まず組織の問題ですが、毎年、100 人以上の減少となっていて、これを回復する見込みが立っていないことです。これは、財政問題としても深刻で、事務所の移転で経費の削減をするなどの事務局の努力はありましたが、「日本の科学者」の発行そのものすら危うくなるという深刻な事態です。大会では「発行を隔月にするという」案もだされたほどです。

また、財政では「会費の値上げ」を一年程度かけて、論議をすることになりました。来年度の大会で値上げに踏み切りたいとのことで、実情の説明もありました。神奈川支部では 3 年前に支部大会で会費 100 円の値上げを提案しましたが、物価高騰などから提案を延期して、今日にいたっています。会費を値上げすれば、退会をするという会員は、支部アンケートでもいます。会費の問題は組織の問題として丁寧な論議が必要だと思います。

矛盾するようですが、私が支部役員になってから、すべての会議がオンラインとなっています。何よりも本音で論議できるように、リアルな会議をもたなければ、全国的な状況はわからないと思います。このことは、この大会では発言の機会が同等にあるといっても、実際は、かたよっていて、とくに役員どうしの討論のようなものが多かったと、感じるのは私だけでしょうか。

さらに、ハラスメントの問題は、委員会を設置するという提案が継続して論議されました。私には、そもそも第三者委員会をもうけて論議をしてきたとのことですが、そもそも、執行部が任意に人選した委員会は検討委員会ともいうべきで、客観性に疑問があります。確かに、ことはシビアな内容でしょうが、結局何がどうなのかまったく分かりませんでした。何らかの文書などが無いと、オンラインではなおさらよくわかりません。

神奈川支部はこのところ、会員を毎年 1 人以上、増やしてきました。転入もあって現勢を保っています。昨年の支部アンケートでは会員の平均年齢は 70 歳でした。このままでいけば組織として立ちゆかなくなることは明らかです。全国的には『全国の支部会費がいくらなのかはわからない』ということでしたが、やはり、実態の把握から始めるべきではないかと思っています。最後に会議を一日してほしいという意見がありましたが私も賛成です。そのためにも、リアルな大会の再開を願っています。

第 61 回 JSA 神奈川支部大会記念講演「日本の教育のあり方を考える」を論議

JSA 神奈川支部では連年、定期大会で記念講演を行っています。昨年の支部大会では、支部の活動を広げるために、毎年の研究交流会を市民にむけて開催することにしました。昨年の 10 月には、「秋の支部研究交流会」として、東京工業大学名誉教授の山崎正勝さんに、アメリカ映画『オープンハイマ

一』にちなんで、核兵器廃絶に向けて科学者と市民の責任について考えました。

5月10日の土曜日に労働プラザにおいて、第61回支部定期大会を開催し、記念講演「日本の教育のあり方を考えるー学習指導要領・平和教育・地域教育ー」では、横浜市立大学でドイツ近現代史を専攻する山根徹也さんをお願いしました(図1)。論題は専攻にかぎらず決めていただいたところ、高校教科書執筆に参加するなかで学習指導要領の問題点を知る機会があったとのことで、「歴史教育を考えるー学習指導要領の検討を中心に」とのテーマでお話いただきました。

さらに、支部には教育や情報を専門とする研究者も多くいることから、名寄市立大学の中島常安さんに「幼児期の平和教育と学習指導要領」、松蔭大学の鈴木秀顕さんは「地域と社会実践から学校教育を考える」とのテーマでコメントをいただき、参加者をまじえたディスカッションという企画としました。ひごろお付き合いのない、労働組合や教科書ネットワークなどにも呼びかけ、賛同をいただきました。

やむなくリアル参加できない人にむけて、オンラインによる配信を行いました。

当日、山根さんは、「文科省が決められている学習指導要領というものを気にかけることはないが、日常的に使われている学習指導要領はすでに異常なものになっている」と小学校の教科書もひきながら、以下のように話しました。

戦後、教育基本法が制定されて、民主主義、平和、基本的人権の尊重が教育の原則となったはずが、いま、教育の現場に学習指導要領として戦前の天皇をはじめとしてナショナリズムが押しつけられています。自民党が改憲のための準備を進めるのと連動するように、2006年の教育基本法改正案が国会で成立したのが転機といえます。学指導要領もこれにあわせ、とくに、小学校の教科書には明治時代の権力者が偉人として登場、「国民的自覚を持って社会の発展に尽力する」などと記されるようになって、道徳教育は教育全体をとうして「伝統文化と我が国と郷土を愛する」とされました。歴史を知することは当然ですが、国を愛するということは曖昧なもので、どのような意図もありえます。「教科書はもう学習指導要領に沿っているのが当たり前、検定で合格するのは当たり前」「教科書を書きながら検定に合格している方が大変」「かわった教科書が時々あるっていうレベルではなく政府の指令が学校現場に教科書会社の強制力を持って実施され」という事態になっている。このような事態は、民主主義と平和を踏みにじるものであってと結びました。

中島さんは、幼児期教育における「平和学」を实践とともに研究され、平和教育は「協働による自己実現」を意味し、争いのなかで共通点をみつけるためには自己を大事にする姿勢が教育に求められている。鈴木さんは、偏差値偏重の悪影響は顕著で、AIはこれを変える方法であること、さらに、地域と連携する学習ネットワークを作っていくことは、教育にとって不可欠と話しました。

ディスカッションは、教育にとって倫理とは何かという問題におよび、カント、ロールズなどの哲学的な問題にもおよび、最後に『教育は地域に何をすべきか』という問いに、山根さんは学生をつれて訪れたアウシュビッツの経験をもとに、戦争の経験者が少なくなっているなかで、さまざまな方法で伝えることの大切さ、中島さんは保育問題研究会での実践教育から平和を幼児期から自主的に考えること、平和的な手段によって解決する方法を見出そうとすること、鈴木さんは市民会議などの実践から、気候変動などの活動が継続しないのは十分な学習の機会がないのではないかと、研究者が積極的にかかわることが必要と話しました(図2)。論議は科学者会議にふさわしい活発なものになりました。



図1 講演する山根徹也さん



図2 討論する山根・中島・鈴木氏

オンラインも併用して、12 人の参加がありました。

横浜ノースドックの米軍揚陸艇部隊配備で配備反対連絡会が院内集会を開催

後藤仁敏

2025 年 6 月 11 日、横浜ノースドック米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会が、衆議院第二議員会館第 3 会議室で、議員 4 人、議員秘書ら 5 人を含め 25 団体の 47 人が参加して院内集会を開催し、配備撤回と早期全面返還を求める請願署名 9778 筆（当日は 878 筆）を 6 人の紹介議員に提出しました。紹介議員は、日本共産党の志位和夫衆院議員と小池晃参院議員、社会民主党の福島瑞穂参院議員、立憲民主党の阿部知子衆院議員と早稲田ゆき衆院議員と水野素子参院議員の 6 人にのぼりました。

最初に、共同代表の私が「横浜港のど真ん中に米軍の出撃部隊が配備され、市民の命が危険に曝されるようになった。配備撤回まで運動を進めよう」と挨拶しました（図 1）。

ついで、駆けつけた日本共産党議長の志位和夫衆院衆院議員は「揚陸艇部隊の任務は沖縄の海兵隊を乗せて対中国軍事作戦を準備するもので非常に危険だ。基地のない神奈川を実現しよう」と挨拶しました。

社民党党首の福島瑞穂参議院議員は、「ノースドックは私の名前と同じみずほふ頭にある。今日、学術会議解体法が強行採決された。軍拡を進める自公政府を選挙で止めよう」と訴えました。両議員に署名簿が渡されました（図 2）。その後、参加された立憲民主党の阿部知子衆院議員と水野素子参議院議員にも挨拶いただき、署名簿を渡しました（図 3）。早稲田ゆき衆院議員秘書の稲見圭氏、小池晃参院議員にも署名簿が渡されました。

リムピース編集部の星野潔さんは「ノースドックの近況」について、スライドで次のように解説しました（図 4）。「6 月 5 日にオスプレイが陸揚げされ、7 日に横田基地に飛んだ。ノースドックは、輸送・兵站の拠点、また戦争資材事前配備拠点として、重要な機能を担っている。横浜港の軍事化が進んでいる」。

県平和委員会の菅沼幹夫さんは「神奈川の基地のようす」について、スライドで次のように話しました（図 5）。「神奈川にはノースドックを中心に、南に横須賀海軍基地、北に海軍厚木基地、陸軍のキャンプ座間と相模原総合補給廠があり、対中国のための日米一体化した戦争司令部と兵站・整備・輸送拠点となっている。軍事対軍事ではなく、憲法に根ざした政治・外交の道に転換しよう」。

横浜市立大教授の山根徹也さんは、2023 年に取組まれ、6 万筆集めた配備反対県民署名の活動について報告しました。日本共産党の木佐木忠晶県会議員も挨拶しました。また、畑野君枝元衆院議員と赤石ひろ子比例予定候補も参加しました。



図 1 主催者挨拶する私



図 2 福島・志位議員への署名提出



図 3 挨拶する阿部・水野両議員



図 4 報告する星野潔さん

最後に、連絡会事務局長飛田久男さんが国会請願署名の経過を紹介し、今後も配備の撤回を求めて、オンライン署名など幅広い運動を進めようと呼びかけました。

会場が狭く、参加者は限られましたが、25 団体も参加し、米軍部隊配備の撤回とノースドック基地の早期全面返還を求める運動にとって、大きな発展の起点となる集会になったと思われます。なお、この集会の様子は、後日、動画配信される予定です。

私の開会の挨拶の原稿は以下のとおりです。

横浜では 2014 年から IR カジノ誘致反対の運動があり、2021 年 8 月の市長選でカジノ反対の山中市長が誕生し、誘致の撤回が宣言されてほっとしているのも束の間、2023 年 1 月 11 日、ワシントンでの外交・軍事担当閣僚による安全保障協議委員会（2 プラス 2）で、横浜ノース・ドックに小型揚陸艇部隊（13 隻、280 人）の配備が合意したと発表され、ビックリ仰天しました。カジノは私達からお金を奪いますが、米軍の出撃基地は私達から命も財産もすべてを奪います。

この部隊は「第 5 輸送中隊」と呼ばれ、沖縄読谷村にある米陸軍第 10 支援群の指揮下に置かれることから、沖縄・南西諸島に展開する海兵沿岸連隊と共同して台湾有事にそなえる部隊であることは明らかです。昨年 7 月 31 日にはキャンプ座間にはノースドックの部隊を指揮する第 765 輸送大隊が発足し、ノースドックではふ頭の大規模改修が今年から 5 億円～10 億円をかけて行われます。新型の揚陸艇の着岸のためと思われます。

揚陸艇は小型ではなく、長さ 53m もあり、戦車を 5 台も積み、兵隊も武器も弾薬も積んで敵地に揚陸します。揚陸艇部隊の米軍基地は、戦争が始まれば最初に攻撃の的になります。市民の命も財産も奪い、横浜を神奈川を再び焼け野原にする危険性があります。アメリカの高官が「台湾有事は 2025 年だ」「2027 年には中国は台湾を武力攻撃する」と戦争を煽っています。そうなれば、米軍基地のある沖縄が、そして神奈川、横浜が戦場になります。

さらに心配されるのは、ノースドックがオスプレイの搬出入の拠点となっていることです。昨年 11 月には屋久島で米軍のオスプレイが爆発し墜落しました。そのような事故が横浜で起きることも心配されます。事実、米軍ヘリが、昨年 8 月には海老名の水田にまた 11 月には茅ヶ崎の海岸に不時着しました。水田や海岸であったからよかったのですが、市街地だったら大惨事になっていたでしょう。先週の土曜日、6 月 7 日にもオスプレイがノースドックから横田基地に飛んでいます。

あとで山根教授から報告されますが、2023 年には、山中市長あての県民署名が取り組まれ、年末までに 6 万近い署名が市長に届けられました。しかし、私たちの願いは無視され、昨年 2 月 8 日に、基地の運用開始の式典が行われ、200 人を超える市民がゲート前で抗議しました。

これらの署名や声を受けて、山中市長は昨年 6 月に防衛省を訪れて山中伸吾政務官に、ノースドック基地の早期全面返還を求めました。また、市役所と中央図書館で基地に関するパネル展を開催しました。

しかし、まだまだ市民の関心は低いので、この問題の危険性を広く知らせるために連絡会は昨年 5 月に「横浜を敵基地の拠点にするな！」という判りやすいパンフレットを作成したので、参加者に配布しました。同時に、市長宛ての県民署名を受け継いで、衆参議長あての請願署名に取り組み、1 万近い署名を集めました。この署名を国会に届けるために、本日の院内集会を企画しました。

今日は、リムピースの星野潔さんにはノースドックの状況を、神奈川県平和委員会の菅沼幹夫さんには県内の基地の状況を、横浜市大教授の山根徹也さんには 2023 年に取り組まれた県民署名について報告していただきます。ノースドック反対連絡会の飛田久男さんには今後の運動を提起して



図 5 報告する菅沼幹夫さん

いただきます。担当者が急病でオンライン配信はできなくなりましたが、後日、YouTube 動画配信をする予定です。議員の方々には来られた方から挨拶をお願いします。短時間ですが、最後まで、よろしくお願いします。

なお、院内集会の開催については、早稲田ゆき衆議院議員と稲見圭秘書にお世話になりました。厚くお礼を申しあげます。

第9回九条の会全国交流集会の報告

後藤仁敏

2025年6月28日、第9回九条の会全国交流集会がオンラインで開催され、全国から83名が参加した。集会の前半は弁護士の山田聡美さんの司会で、後半は憲法学者で東京慈恵会医科大学名誉教授の小沢隆一さんの司会で進められた。

はじめに、小森陽一事務局長が改憲をめぐる情勢について報告したが、声が小さくてよく聞こえず、残念であった(図1)。

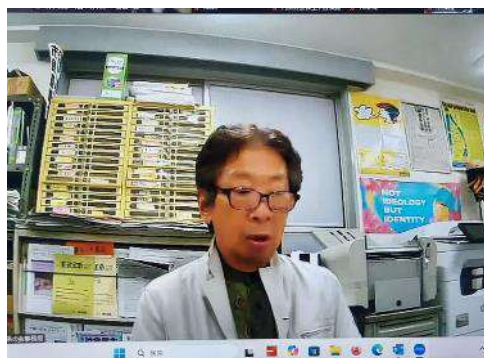


図1 事務局報告する小森陽一さん

つづいて、9条の会・豊中(大阪)の松岡幹雄さん、おおさか女性九条の会(大阪)の永廣紀美子さん、憲法9条京都の会(京都)の平野泰子さん、修学院学区9条の会(京都)の中川勉さん、九条の会世話人の池内了さん、西神ニュータウン9条の会(兵庫)の大西慶雄さん、第九条の会ヒロシマ(広島)の藤井純子さん、鳥取市9条の会(鳥取)の角谷照恵さん、上小(じょうしょう)地域9条の会連絡会(長野・上田)の島田佳幸さん、みやぎ憲法九条の会(宮城)の須藤道子さん、九条の会世話人の清水雅彦さんが報告し、休憩となった。

その後、九条の会事務局の高田健さんが「憲法審査会の状況」について報告した。つづいて、九条の会とうかい(茨城)の鈴木元衛さん、栄区九条の会・根岸線沿線九条の会連絡会(神奈川)の私、えびな・九条の会(神奈川)の小川吉信さん、千住九条の会(東京)の中田順子さん、世田谷九条の会(東京)の宮原栄子さん、九条の会世話人の伊藤千尋さん、柏九条の会(千葉)の三井富士夫さん、高崎ごまんごく9条の会(群馬)の関宏さん、さくら志津憲法9条をまもりたい会(千葉)の増沢誠一さんが発言し、最後に小沢さんが挨拶して閉会となった(このほか、九条の会のホームページには、つるおか・たかわ九条の会(山形)とあさひかわ西地域九条の会(北海道)の資料が掲載されている)。

このうち、いくつかの発言の資料が九条の会のホームページに掲載されており、それをもとに報告する。おおさか女性9条の会は、2025年9月3日の発足集会を1200人の参加で開催し、毎年つどいやパレードを開催してきたが、2020年からはコロナ禍で中止となり、2023年からジェンダー問題などをテーマに再開している。

修学院学区9条の会は2005年5月に結成され、毎年講演会や映画の上映会を開催している。また、167回にわたって近現代史学習会を開催している。西神ニュータウン9条の会は、2006年に設立され、会員と読者会員の250名で構成されています。毎月のNEWSの発行は現在累計330号、HPも毎月更新しています。最近では「守ろう日本の食と農」、「選択的夫婦別姓について」「ノーベル平和賞受賞・被団協の歩みと核廃絶へ向って」「いま自衛隊に起きていること」などの講演会を行

いました。年一回「記念の集い」も開催しており、今年5月には「第17回記念のつどい」として「被爆ピアノコンサート」に取り組み約270名が参加されました。今年3月神戸港にアメリカの掃海艦が入港しました。「神戸方式」による「非核証明書」を提出せずに入港したものです。当会では、神戸港の管理者である神戸市に抗議声明を出し有志が接岸埠頭での抗議活動に参加しました。神戸には潜水艦を建造、補修する三菱重工、川崎重工が立地しています。私たちの住む街が軍事化していくことは決して許されるものではありません。今後も9条の平和を身近なくらしや生活の中で訴えていくつもりです。

第九条の会ヒロシマでは、毎年、8月6日に新聞への市民意見広告を出しています。今年は8月5日に平和へのつどいを開催します。鳥取市9条の会では、今年4月から6月まで、毎月3回にわたって平和と民主主義を考える連続市民講座を開催しました。

みやぎ憲法九条の会は、毎週火曜日に仙台中心部で街宣、成人式、憲法記念日に宣伝、毎年、憲法を守り生かす宮城のつどいを開催し、毎月2回メールニュースを発行しています。また、若者のとの交流を深める取り組みもおこなっています。

世話人の清水雅彦さんは、「九条の会の意義と今後の課題」と題して、昨年の衆議院選挙で自公過半数割れを起こし、改憲勢力が3分の2を下回り9条明文改憲は遠のいたが、「安保3文書」の具体化など実質改憲は着々と進んでいる。今が九条の会運動の踏ん張りどころだ。市民連合の取り組みを進め、全国各地で本気の「労組と市民と野党の共闘」を作り、政権を取ろうと呼びかけました。

私は、「栄区九条の会20年のあゆみ」について、スライドで解説し、11年目までは独自の周年の集いを開催してきたが、高齢化が進み、単独での開催が困難になり、根岸線沿線九条の会連絡会（磯子地域九条の会、森九条の会、洋光台九条の会、港南台9条の会、栄区九条の会、大船九条の会が参加）で他の九条の会といっしょに集会を開催しています。また、区内では、革新懇、新婦人、年金者組合、医療生協など他の団体といっしょに「大軍拡・大増税ストップ栄区アクション」を結成し、総がかり行動と称して、街宣やパレードをおこなっていることを報告しました。同じ九条の会同士の共同、区内の他の団体との共同で、運動を進めていることを紹介したのでした。

千住九条の会は各国語の「九条プレート」（税・送料込み6000円）を作成し、普及していることを報告しました。世話人の伊藤千尋さんは、九条の碑は1985年から2023年までに全国に34あったが、2024年は15、2025年は22と急増していることを報告しました。神奈川は秦野と藤沢に2カ所のみで、もっと増やしたいと思いました。

全国の九条の会の仲間が、それぞれさまざまな工夫をして、九条の会運動を進めている状況が分かり、学ぶところの多い交流集会となりました。神奈川からは、九条かながわの会の参加がなく、えびな・九条の会と栄区九条の会の2つのみであったのが残念でなりません。

本の紹介：食の属国日本―命を守る農業再生（鈴木宣弘著、三和書籍）

惣田 昱夫

米不足が表面化し米価の高騰が起きている。備蓄米の放出も遅れ、令和の米騒動と言われている。そもそもなぜ米不足が起きたのか、なぜ米価が高騰したのか何故備蓄米の放出が遅れたのか等々、本質的な原因が解明されず、前大臣の江藤氏の「米は買ったことが無い自宅には米はたくさんある」と発言し辞任に追い込まれた、後任の小泉大臣は備蓄古米の放出で、TV等で持ち上げられたが、よく考えてみると加工用や飼料にしかない古古古米を一部の報道者に食させ「あまり差はない」

と少し安く消費者に売り渡している。これらのパーフォーマンスは米の不足を利用して、外国産の米輸入と日本農業の縮小へと大変上手に舵を切っているように見える。一部の有名な報道コメンテーターも「日本の米は高い、競争力をつけるには規模拡大だ」ということをしきりに言っている。また「日本農業は補助金ばかりで過保護だ」などと言って本質をごまかす論調が生まれている。農家出身の、また過去に農政行政に携わったものとして、これらの論調に大変イカリすら感じている。今回の米不足の原因は、歴代自民党政府の減反政策や価格保証を切り捨て農業全般にわたる縮小政策の結果であることは明らかなのに。朝日新聞6/13付けに「減る田んぼ 50 年前の 7 割、昨年の収穫は 679 万トン」と出た。

ここで紹介する本の著者は鈴木宜弘東京大学特任教授である。著者は農政官僚を経験し東大の教授として長年農政のあるべき政策を研究され、具体的に提案されてこられた方である。出版にあたり日本の農業の現状や今起きている米不足の原因を緊急レポートとして追加され出版されている。

内容は、9 章と緊急レポートの 10 章となる。章立てを見ると書かれている内容が理解できる。章ごとの要点を記す。第 1 章は今、なにがもとめられているのか-農村が消えていく、新基本法に対する疑問、などがかけられている。第 2 章はなぜ、自給率を重視せず「有事立法」なのか-米国によって敷かれたレール、食糧を自給できない人たちは奴隷である。第 3 章、今だけ、金だけ、自分だけの農業がもたらすもの-食糧危機のメカニズム、大規模農業という幻想等が書かれている。第 4 章、腰砕けの価格転換誘導策-日本農業は守られているというウソ、日本の補助金額は先進国で最も低い等々、第 5 章は多様な農業経営体からの後退-効率性が見落とすものとは何か、「共」の重要な役割、第 6 章牛は水道の蛇口ではない-酪農の厳しさを知っているのだろうか？ゲノム編集の怖さ、第 7 章田んぼ潰しに 750 億円-コメ流通自由化の背景にあるもの、水田が解決してくれるもの、第 8 章種をいかに守っていくか-種子法廃止の裏事情、種は誰のものか、第 9 章農を守るこそ真の国防-生贄として差し出された日本農業、世界から置いていかれつつある日本、レポート令和の米騒動-米不足は猛暑のせいではない、オレンジ・牛乳ショックの真相-貿易自由化と消費者選択、となっている。どの章も日本の農業の現在を理解するうえで重要である。「日本の水田をフル活用すれば 1300 万トンの米が作れる、また、農家の収入は時給では 10 円ほど、農家の貧困化の急速な進行は、日本のセーフティーネット、食料安全保障の崩壊へと進行している等々」の指摘は身につまされる。本書は米不足だけでなく、日本農業の危機的な状況を知り、解決法を提案している良書である。ぜひ手に取って読んでほしい 1 冊です。

『食の属国日本-命を守る農業再生』鈴木宜弘著、四六判、248 頁定価 1,600 円+税、ISBN978-4-86251-583-4、2025 年 3 月 5 日発行)



ドラマ紹介：「あなたを奪ったその日から」悲しみに打ち勝つ愛の物語

後藤仁敏

素晴らしいドラマを見た。2025 年 6 月 30 日に放送終了したフジテレビの「あなたを奪ったその日から」というドラマだ。

3歳の娘・灯を食品アレルギーで失った母親・紘海（北川景子）の悲しみと犯人への怒り、そのあげくに娘を殺した犯人・結城（大森南朋）の3歳の次女・萌子を奪ってしまうのだ。

紘海は、別れた夫に協力させ、萌子が生まれて間もなく離婚して家を出たの実母のDNAを盗んで自分のものとして親子鑑定に出し、赤の他人を実の娘・美海にしてしまう。しかし、美海は可愛くてたまらない。紘海は美海に10年間、溢れるほどの愛情をそそいで育てる。



図1 左から紘海、美海、結城

紘海は娘が殺された真実が知りたくて犯人・結城の会社に就職し、ついにその真実を知る。結城は食品アレルギーを引き起こした直接の犯人である長女をかばうために真実を隠蔽したのだった。父の会社のお弁当づくりを手伝いに来た長女が間違っただけでピザにエビを入れてしまい、甲殻類アレルギーの灯を殺してしまったのだ。そして結城も長女も、その罪の意識に深く苦しんでいたのだ。一方で結城は、突然消えてしまった次女を必死で探し続けていた。結城の罪を犯した長女を守りたいという思いと、自分が目を離したすきに次女を失った後悔も十分に語られる。

しかし、そんな二人の罪は許されるわけがない。真実は次第に明らかになり、結城も紘海もしいに追い詰められてゆく。ついに美海が萌子であることが明らかにされ、結城は次女を取り戻す。紘海は結城から「もう二度とあの子の前には現れないでください」と言われ、紘海は思わず美海に「お母さんじゃない。娘でもない。血も繋がっていない」と言ってしまう。思ってもいないことを言う哀しみがここに突き刺さる。

紘海は、そのことを後悔して悩み、自首して罪を償おうと思う。しかし、美海と紘海が愛し合いながら過ごした10年は消せるわけがなく、萌子となった美海は紘美に会いたいと思う。それは紘美も同じで、ひどいことを言って美海を傷つけたことを詫言いたいと思う。実の母も自分に代わって10年間萌子を育てた紘海のことを「そうは言っても育ての親なんだから」と案じていた。

結城の長女を恨む元家庭教師がネットに結城が長女の罪を隠蔽していた事実をSNSで暴露し、結城は謝罪に追い込まれる。そこで、思わぬことが起きる。結城は、萌子と紘海が親子として深く結ばれているもう一つの事実を認識し、紘海に「私も親としての責任を果たすから、あなたも親としての責任を果たしてください」と言い、記者会見で「二人は本物の親子です」と証言するのだ。結城と紘海は、それがわが子が幸せに成長する唯一の道なのだと認識したのだ。

萌子となった美海への愛が、紘美の娘・灯を奪った結城への憎しみを消し、次女・萌子を奪われた結城の紘海への憎しみを消し、互いに許し合ったのだ。娘を失った紘海と結城の悲しみ、娘を愛する紘海と結城の思い、ついに愛が悲しみに勝つのだ。愛し合う家族にとって、何気ない日常の親子がともに暮らす生活こそがもっとも大切なものであることを教えている。子どもにとっては、家族は多ければ多いほどよいのだということも。

こんなにも悲しく、切なく、愛情あふれる物語を楽しませてくれた番組の制作者に感謝したい。テレビドラマで映画にもなった「八日目の蟬」（角田光代原作）や日本テレビのドラマ「Mother」（坂本裕二脚本）にも似ているが、さらに進んだ素晴らしいドラマになっている。

行事案内

☆7月18日[金] 13:00～ 新作ドキュメンタリー映画『壁の外側と内側 パレスチナ・イスラエル取材記』（川上泰徳監督/2025年/日本/104分）試写会 会場：映画美学校試写室（ユーロスペースのある建物の地下1階、<http://eigabigakkou.com/access/>） ご本人さま限り 当日はお名刺を頂戴いたします 開映後および満席時はご入場不可となります 公開情報：8月30日(土)より、渋谷ユーロスペースにてロードショーほか全国順次公開 問合せ：合同会社きろくびと 中山和郎 TEL/FAX:047(355)8455 Mobile:070(5459)9205、e-mail:info@kiroku-bito.com、

HP : <http://kiroku-bito.com>

- ☆7月18日(金)映画上映 19:00～ 「10月7日からのガザ」7月試写会 JCA-NET <<https://www.jca.apc.org>> 申込み(要予約):トークは映画終了後(トークのみの参加も可能です) 開催方法 オンライン、予約が必要です(以前の試写会に申込みされた方も再度予約が必要です) オンライン会議室のアクセス情報(URL とパスワード)は、開催 30 分前頃に予約された方にメールで連絡します。参加費:無料(カンパ歓迎) 予約は下記のフォームから申込みください。<<https://pilot.jca.apc.org/nextcloud/index.php/apps/forms/s/xRxgc5NjmArpBZwKjzGLC6CB>> 上映後のトークイベント:上映終了後の 20 時 45 分頃から下記のトークイベントを開催します。映像だけではなかなか分りづらいパレスチナとイスラエルをめぐる背景などについて、ゲストからお話をいただきます。お話:村田はるせさん(アフリカ文学(フランス語表現)専攻) 終了予定時間 21 時半頃 (注意)ZOOM ではないので、ZOOM のアプリは使用しないでください。いつもお使いのブラウザ(Google Chrome、Microsoft Edge、Safari などのホームページ閲覧ソフト)で指定の URL にアクセスするだけです。トークイベントのみに参加したい場合も上記の予約フォームから予約し、20 時 45 分頃に入室してください。問合せ:としまる(JCA-NET) toshi@jca.apc.org、070-5553-5495
- ☆7月20日(日)14:00～18:00 第7回つどい「どんな障がいがあっても安心して暮らせる地域を目指して」ー「千葉県長生き村で起きた神奈川県の事件」を二度と繰り返させないために 会場:ウィリング横浜 124・125 研修室(京急上大岡駅直結) 基調報告 講演:田中智子(佛教大学教授)「事件を繰り返させないために、社会にできること」 リレートーク 予約先着順 100 人 参加費 500 円 主催:これからの県立施設を考える会 申込み: [um250577-8745\(at\)tbz.t-com.ne.jp](mailto:um250577-8745(at)tbz.t-com.ne.jp) (加藤さん)
- ☆7月21日(月)13:00～17:00 横浜教員採用試験にむけての学習会 会場:桜木町ぴおシティ 6 階さくらリビングミーティングルーム(桜木町駅徒歩 3 分) 2 次試験対策 参加費:1 回につき 500 円 主催:子ども・教育・くらしを守る横浜教職員の会 問合せ:045-212-5753
- ☆7月22日(火)18:30～ 横浜市長選挙の状況や呼びかけを聴く会 会場:横浜市健康福祉センター8 階会議室(桜木町駅徒歩 3 分) 市長選の状況報告、市民のための横浜市政を進める会の呼びかけについて 主催:市民のための市長をつくる会 問合せ:045-650-1896
- ☆7月25日(金)18:30～20:30 学習会「女性の権利デー神奈川アクション」 会場:かながわ県民センター304 会議室(横浜駅西口徒歩 5 分) 講演:松元ちえ(ジャーナリスト)「いま、マスメディアで働く女性たちは」 討論 主催:実行委員会 問合せ: [opcedawkanagawa\(at\)gmail.com](mailto:opcedawkanagawa(at)gmail.com)
- ☆7月26日(土)午後 被爆 80 周年原水爆禁止世界大会 核も戦争もない平和な 21 世紀に! 会場:福島市パルセいいざか 詳細は次の url に掲載 <http://gensuikin.peace-forum.com/80gensuikin-info/>
- ☆7月26日(土)13:00～16:30 神奈川民医医療機関連合会 第 27 回ピースフェスティバル 平和のバトンを繋ごう 核は戦争の抑止力にはならない 会場:鶴見区民文化センターサルビアホール 4 階ホール(JR 鶴見駅・京急鶴見駅徒歩 3 分) オープニング企画:栗友会合唱団「みるく世がやゆら」 文化企画:岡大介氏 カンカラ三線 講演①和田征子氏(日本被団協事務局次長) 講演②高垣慶太氏(第五福竜丸インターン) 平和学校卒業企画発表 被爆者救護連帯支援募金の訴え 原水禁世界大会参加代表者挨拶 閉会の挨拶 問合せ:神奈川民医連(045-320-6374)
- ☆7月26日(月)13:30～16:00 津久井やまゆり園事件「犠牲者を偲ぶ会」 会場:千木良公民館(JR 相模湖駅からバス、千木良小学校前下車徒歩 5 分) 主催:共に生きる社会を考える会 問合せ:042-684-3514 (太田さん)
- ☆7月28日[火]13:00～ 新作ドキュメンタリー映画『壁の外側と内側 パレスチナ・イスラエル取材記』(川上泰徳監督/2025 年/日本/104 分) 試写会 会場:映画美学校試写室(ユーロスペースのある建物の地下 1 階、<http://eigabigakkou.com/access/>) ご本人さま限り 当日はお名刺を頂戴いたします 開映後および満席時はご入場不可となります 公開情報:8 月 30 日(土)より、渋谷ユーロスペースにてロードショーほか全国順次公開 問合せ:合同会社きろくびと 中山和郎 TEL/FAX:047(355)8455 Mobile:070(5459)9205、e-mail:info@kiroku-bito.com、HP:<http://kiroku-bito.com>
- ☆7月29日(火)18:30～ 横浜市長選挙の状況や呼びかけを聴く会 会場:横浜市健康福祉センター8 階会議室(桜木町駅徒歩 3 分) 市長選の状況報告、市民のための横浜市政を進める会の呼びかけについて 主催:市民のための市長をつくる会 問合せ:045-650-1896
- ☆7月31日(木)13:30～15:30 中国はどんな社会をめざしているのか 会場:戸塚地区センター2 階会議室(戸塚駅徒歩 7 分) 会費 500 円(資料代) 講師:岡崎雄児(元中京学院大教授) 主催:日本中国友好協会横浜西南支部 問合せ:080-2981-3935 (大幡さん)
- ☆7月31日(木)13:00～ 福島原発かながわ訴訟第 2 審判決 会場:横浜地裁 101 号法廷 13 時～事前集会 14 時～判決 終了後、横浜市開港記念会館で報告集会 連絡先:福島原発かながわ訴訟を支援する会(070-1316-4575)
- ☆8月2日(土)10:00～12:30 2025 年歴史教育者協議会全国大会第 76 回東京大会:戦後 80 年の歴史に学び、平和をきりひらく 会場:明治大学和泉キャンパス第一校舎(オンライン参加可)(京王線明大前駅徒歩 5 分) 記念講演 山田朗(明治大学教授)「戦争の記憶の継承から平和の創造へ」 会員・教員 5500 円 当日 6000 円 学生・U25・市民 1500 円(当日 2000 円) 主催:実行委員会 問合せ:03-3947-5701
- ☆8月2日(土)13:00～ 神奈川県弁護士会・日本弁護士連合会第 67 回人権擁護大会プレシンポ 映画「戦雲」の鑑賞と三上智恵監督のお話を聞く会 会場:神奈川県弁護士会館 5 階(みなとみらい線日本大通り駅 1 番出口徒歩 1 分) 主催:神奈川県弁護士会 共催:日本弁護士連合会、関東弁護士連合会(予定) 連絡先:045-211-7705
- ☆8月2日(土)13:30～ 日本被団協ノーベル平和賞受賞記念公演・青年劇場「あの夏の絵」 会場:小田原三の丸ホール大ホール(JR 小田原駅徒歩 13 分) 前売り 3000 円、当日 3500 円、大学生・高校生 500 円、小・中学生無料 チケットはプレイガイドで 主催:実行委員会 問合せ:090-7209-0100 (大久保さん)
- ☆8月4日(月)午後～6日(水)午前 被爆 80 周年原水爆禁止世界大会 核も戦争もない平和な 21 世紀に! 国際シ

- ンポジウムー広島大会** 4日午後：平和行進、開会総会 5日午前：分科会、フィールドワーク 5日午後：フィールドワーク・ひろばなど 6日午前：国際シンポジウム・まとめ集会 会場：広島市広島県総合体育館ほか 詳細は次のurlに掲載 <http://gensuikin.peace-forum.com/80gensuikin-info/>
- ☆8月7日(木) 午後～9日(水) 午前 **被爆 80 周年原水爆禁止世界大会 核も戦争もない平和な 21 世紀に！** 7日午後：開会行事 8日午前：分科会、フィールドワーク 8日午後：フィールドワーク・ひろばなど 9日午前：閉会総会・平和行進・黙祷 会場：長崎市長崎ブリックホールほか 詳細は次の url に掲載 <http://gensuikin.peace-forum.com/80gensuikin-info/>
- ☆8月8日(金)～8月15日(金) 10:00～18:00 **第 10 回戦争の加害パネル展** 会場：かながわ県民センター1階展示場(横浜駅西口徒歩5分) 主催：記憶の継承を進める神奈川の会 問合せ：090-7405-4276、090-8721-3222
- ☆8月9日(土) 14:00～16:30 **第 10 回戦争の加害パネル展・講演** 会場：かながわ県民センター2階ホール(横浜駅西口徒歩5分) 講演：山田朗さん「戦後 80 年に振り返る戦争と平和」 資料代 500 円 主催：記憶の継承を進める神奈川の会 問合せ：090-7405-4276、090-8721-3222
- ☆8月11日(月・祝) 14:00～16:30 **第 10 回戦争の加害パネル展・講演** 会場：かながわ県民センター395号室(横浜駅西口徒歩5分) 講演：柏尾安希子さん「加害をみつめる」 資料代 500 円 主催：記憶の継承を進める神奈川の会 問合せ：090-7405-4276、090-8721-3222
- ☆8月11日(月・祝) 14:00～ **日本とアジアの平和をつなぐ日中戦争終結から 80 周年のつどい** 会場：「ココネリ」大ホール(練馬駅徒歩1分) 参加費：2000 円(大学生・高校生 1000 円、小中学生以下無料) 一部：講演・島田正彦氏(小説家) 二部：交流会(沖縄三線演奏、変面、大挙拳表演、東京朝鮮中高級学校舞踊部、再生の大地合唱団など出演予定 主催：実行委員会 問合せ：03-3261-0433 (日中友好協会東京都連合会)
- ☆8月11日(月・祝) 14:00～16:00 **朗読「ひろしまのピカ」&被爆者の証言を聞く会** 会場：逗子文化プラザなぎさホール(京急逗子・葉山駅徒歩2分) 前売り 800 円、当日 1000 円、高校生以下無料 解説：三田政明(元高等特別支援学校教員) 朗読：岡崎弥保(語り手) 証言：松元正(被爆者) 主催：逗子・葉山九条の会 問合せ：046-878-6044 (冨塚さん)
- ☆8月15日(金) 18:15～ **終戦記念日特別映画会「TOMORROW/明日」(黒木和雄監督、戦争レクイエム三部作の第1作目)** 会場：横浜市健康福祉総合センター8階(桜木町駅徒歩3分) 入場無料 主催：日中友好協会神奈川県連合会・同横浜西南支部 問合せ：045-663-0041 (日中友好協会神奈川県連合会)
- ☆8月17日(日)①10:00～、②14:00～ **港北平和の集い・映画会** 会場：港北公会堂ホール(東横線大倉山駅徒歩7分) 映画「ひろしま」 入場無料 主催：港北区原水爆禁止協議会 問合せ：090-2226-1102 (田中さん)
- ☆9月6日(土) 13:30～ **新かながわ創刊 60 周年記念講演とシンポジウムー県民のたたかいと新かながわの役割** 会場：波止場会館(みなとみらい線日本大通り駅徒歩5分) 講演：中西新太郎さん(横浜市立大学名誉教授) シンポジウム 主催：新かながわ社 問合せ：045-334-7867
- ☆9月11日(木) 13:00～ **夏の活動交流会** 会場：川崎市総合自治会館ホール(武蔵小杉駅徒歩5分) 全体集会 講演：小田川義和(全国革新懇事務室長)「参議院選挙の結果と革新懇の役割」 分科会：6会場に分かれて全員発言 参加費 500 円 主催：神奈川革新懇 問合せ：080-5931-8175
- ☆9月23日(火・祝) **さようなら原発 1000 万人アクション** 東電・福島第一事故から早くも 14 年が過ぎました。さようなら原発 1000 万人アクションは、この秋、脱原発と気候正義のために声をあげます。主催：「さようなら原発」一千万署名 市民の会 問合せ：さようなら原発 1000 万人アクション実行委員会 (03-5289-8224)
- ☆9月23日(火・祝) 13:00～17:00 **第 20 回シンポジウム 歴史教科書・いままでとこれから 戦後 80 年と歴史教育の課題** 会場：早稲田大学早稲田キャンパス 7 号館 307 教室(東西線早稲田駅徒歩5分) 報告：米山宏史さん(歴教協)「高校歴史教育 78 年ーその成果を学び、課題と可能性を考える」、松田英里さん(歴科協)「戦後 80 年目の現代史教育ー戦争体験に向き合うための模索」、福原伊織さん(東京歴科研)「中学校歴史教科書の記述の変化 戦後史がどう扱われているか」、大江洋代さん(歴研)「歴史総合・探究系科目の入試出題を踏まえて」 資料代：一般 1000 円、学生・院生 500 円 主催：歴史学研究会、歴史科学協議会、東京歴史科学研究会、日本史研究会、地方史研究協議会、歴史教育者協議会、東京歴史教育者協議会、子どもと教科書全国ネット 21 問合せ：090-8100-1038

JSA 神奈川支部幹事会・発送作業 8月には支部幹事会はお休みです。次回は9月です。

日時：9月16日(火) 14時30分～15時30分、発送作業は14時30分、幹事会は15時から。

会場：かながわ総研事務所(横浜市中区不老町1-6-9 第1HBビル5階、1階に「牡丹飯店」という中華料理屋のあるビルの5階、JR 関内駅西口徒歩3分)。

オンライン参加の場合：zoom ミーティング ID：821 5758 5362 パスコード：8221132

連絡先：飯岡ひろし(携帯：080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com)

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろの発送です。

送り先：後藤仁敏(E-mail：goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax：045-894-1052)